

第2回推進委員会資料
平成29年10月31日
教育委員会学事課

学校配置素案の検討における論点整理について

〔論点1〕 学級数のあり方について

- 昨年度、推進委員会で取りまとめた「基本的な考え方」においては、望ましい学級数を18学級とすることとした。
 - 市民説明会において、現状でも18学級以上ある学校は少ないのに将来的に18学級を目標とするのはハードルが高いのではないかとの意見があった。
 - 18学級を目標とすることは、素案における学校数が12学級や15学級の場合よりも少なくなることから、地域の実情に即した目標と言えるのかという意見も出された。
- ⇒以上から、素案の検討にあたり、引き続き18学級を望ましい基準とし、これに基づく学校数を示すべきか、あるいは、基準とする学級数を12～18学級のように弾力的とし、これに基づく学校数を示すべきか、委員のご意見を伺いたいと存じます。

〔論点2〕 将来人口の設定について

- 将来人口の設定については、これまで、社人研推計ベースと秋田市人口ビジョンベースの2つの推計を示しているところ。
 - 市民説明会において、秋田市人口ビジョンの推計は昨今の人口減少傾向を考えたときに現実的な推計ではないと思われ、社人研推計に基づいて将来の児童生徒数を想定するのが適当ではないかとの意見があった。
- ⇒以上から、素案の検討にあたり、児童生徒数の想定の基礎となる人口推計をどのように考えるべきか、委員のご意見を伺いたいと存じます。

〔論点3〕 小規模校の取り扱いについて

○1学年に1学級以下の規模であるなど、現時点で小規模校に分類される学校については、適正配置の検討において特別の取り扱いをすることとしていなかった。

○しかしながら、平成28年3月の検討委員会提言に定めた通学距離、通学時間の基準やこれまでの統廃合の実施状況など、地理的要因や歴史的経緯の観点から、一定の条件に当てはまる小規模校については、素案の検討段階から小規模でない学校と区別して考えるべきでないかとの意見が出された。

⇒以上から、素案の検討にあたり、小規模校を各地域ブロックに示す学校数と区別すべきか、区別とした場合はどのような条件を設定すべきか、委員のご意見を伺いたいと存じます。